

令和7年度 食品ロス実態調査結果

◆調査概要

■実施日時	令和7年5月19日(月)
■作業場所	伊丹市環境クリーンセンター
■作業時間	8:00～16:00(休憩、準備、片付け含む)
■作業体制	生活環境課:4名 環境クリーンセンター業務課:4名
■調査試料	・5地域(第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域(コンテナ収集)、第二種中高層住居専用地域、近隣商業地域、商業地域) ・1地域につき約26kg(10世帯分程度)、5地域合計約132kgの「燃やすごみ」をサンプル収集、厨芥類(約30kg)を抽出し、組成調査を行った。

- 調査対象試料は5地域で131.98kgであった。
- 試料中、食品ロス(直接廃棄および食べ残し)の割合は8.4%(R6年度9.4%)であった。
- 資源化可能な紙類の割合は12.6%(R6年度9.7%)であった。
- 調査結果を踏まえ、表記金額、定価、売価、グラム単価等を基に食品廃棄物ごとに価格を設定し、残存率を乗じて食品ロスの金額推計を行ったところ調査サンプル全体で約1.4万円と推計された。
- 調査結果を踏まえ、市域全体での食品ロス量を推計すると、約2,095^ト(R6年度約2,409^ト)と推計された。



調査試料中の食品ロス(直接廃棄分・一例)

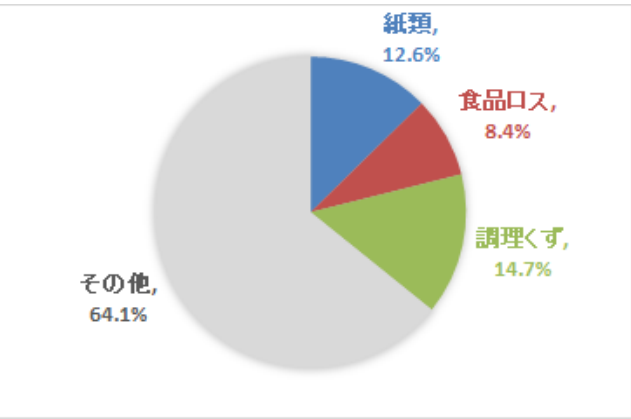
令和7年度 食品ロス実態調査結果

◆調査結果 概要

	項目	数値	単位	備考
A	「家庭系燃やすごみ」処理量	24,941	トン/年	※令和6年度収集実績
B	試料重量	132	kg	
C	総人口	194,784	人	※令和7年4月1日推計
D	1人1日あたりのごみ量	351	g/人・日	$A \div C \div E$
E	年間	365	日/年	
	「家庭系燃やすごみ」のうち紙類の割合	12.6%		※組成調査の結果
	「家庭系燃やすごみ」のうち食品廃棄物の割合	23.1%		
	食品廃棄物の割合のうち食品ロスの割合	36.2%		
F	「家庭系燃やすごみ」のうち食品ロスの割合	8.4%		※組成調査の結果
	紙類混入量（年間）	3,155	トン/年	
G	食品ロス量（1人1日あたり）	29.5	g/人・日	$D \times F$
H	食品ロス量（年間）	2,095	トン/年	$A \times F$
I	食品ロス金額（調査試料）	14,634	円	※組成調査の結果（単価積み上げ）
J	食品ロス金額（人・年）	14,197	円/人・年	$K \div C$
K	食品ロス金額（年間）	2,765,049,955	円/年	$I \times A \div B$

※小数点以下第一位又は第二位を四捨五入しているため、合計や乗除算結果が一致しないことがある

◆調査結果(重量比%)



()はR6年度

- ・全体のうち食品廃棄物の割合 約 23%(約26%)
- ・うち、食品ロスの割合 約 36%(約36%)
- ・全体のうち食品ロスの割合 約 8.4%(約9.4%)
- ・市内の年間食品ロス 約 2,095トン(約2,409トン)
- ・1人1日あたり 約 30グラム(約34グラム)
- ・市内の年間食品ロス金額 約 28億円(約27億円)
- ・1人あたり年間 約 1万4,000円(約1万4,000円)

※小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計が100%とならないことがある